

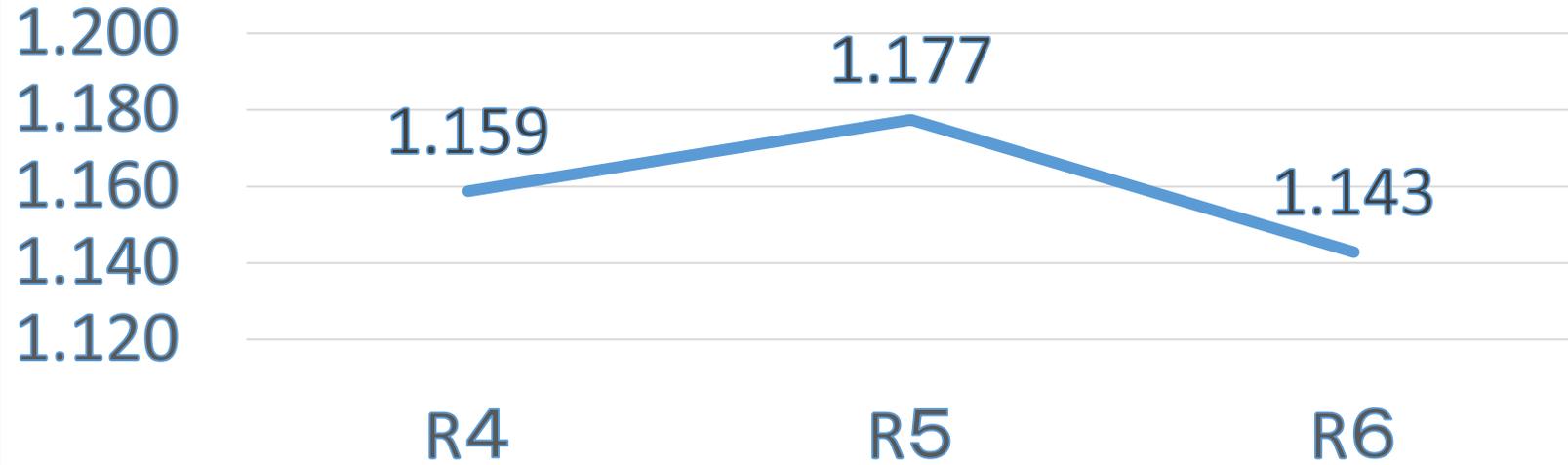
大阪市立上福島小学校

令和6年度全国学力学習調査結果より

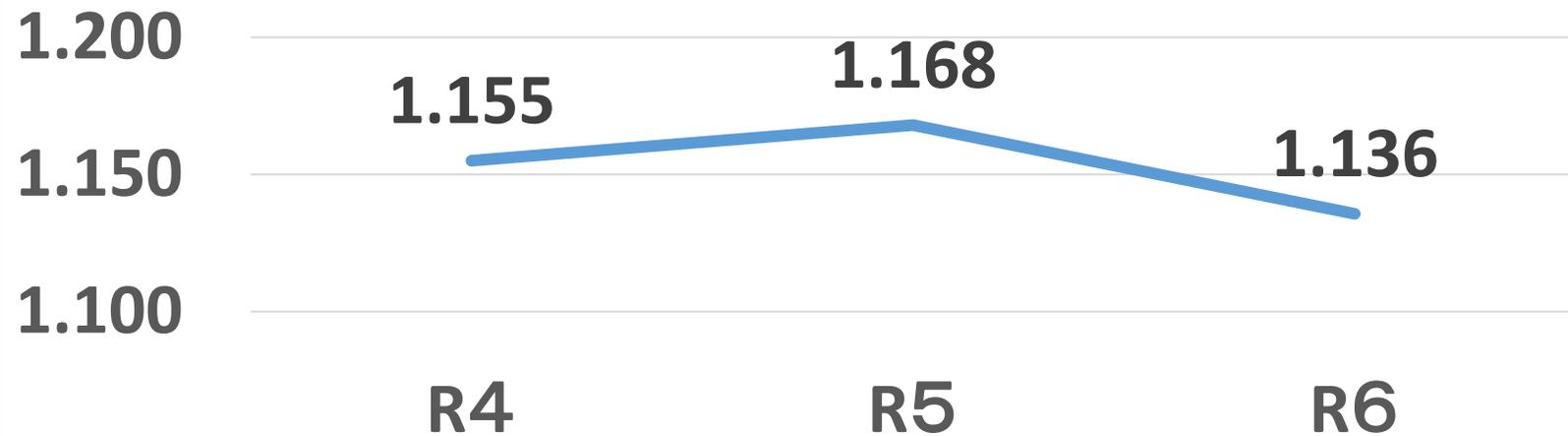
算数科の学力向上をめざして

		R4					R5					R6				
		正答率			対府比	対全国比	正答率			対府比	対全国比	正答率			対府比	対全国比
		貴校	府	全国			貴校	府	全国			貴校	府	全国		
	平均正答率	73	63	63.2	1.159	1.155	73	62	62.5	1.177	1.168	72	63	63.4	1.143	1.136
学習指導要領の領域別平均正答率(%)	A 数と計算	74.6	69.1	69.8	1.080	1.069	76.2	66.8	67.3	1.141	1.132	76	65.3	66.0	1.164	1.152
	B 図形	75.0	62.9	64.0	1.192	1.172	56.4	48.4	48.2	1.165	1.170	73.2	65.2	66.3	1.123	1.104
	C 変化と関係	69.7	51.2	51.3	1.361	1.359	81.4	70.8	70.9	1.150	1.148	68.3	50.9	51.7	1.342	1.321
	D データの活用	75.4	68.7	68.7	1.098	1.098	77.1	63.8	65.5	1.208	1.177	66.5	60.9	61.8	1.092	1.076
評価の観点別平均正答率(%)	知識・技能	78.4	67.9	68.2	1.155	1.150	75.6	67.1	67.2	1.127	1.125	78.6	71.9	72.8	1.093	1.080
	思考・判断・表現	66.9	55.7	56.7	1.201	1.180	69.4	55.7	56.5	1.246	1.228	64.5	50.5	51.4	1.277	1.255
問題形式別平均正答率(%)	選択式	62.3	51.3	51.8	1.214	1.203	66.3	57.1	57.7	1.161	1.149	82.9	74.5	75.3	1.113	1.101
	短答式	84.2	76.2	76.5	1.105	1.101	81.2	74.7	74.7	1.087	1.087	69.7	61.2	62.0	1.139	1.124
	記述式	73.7	59.0	60.2	1.249	1.224	66.4	46.5	47.3	1.428	1.404	64	50.1	51.0	1.277	1.255

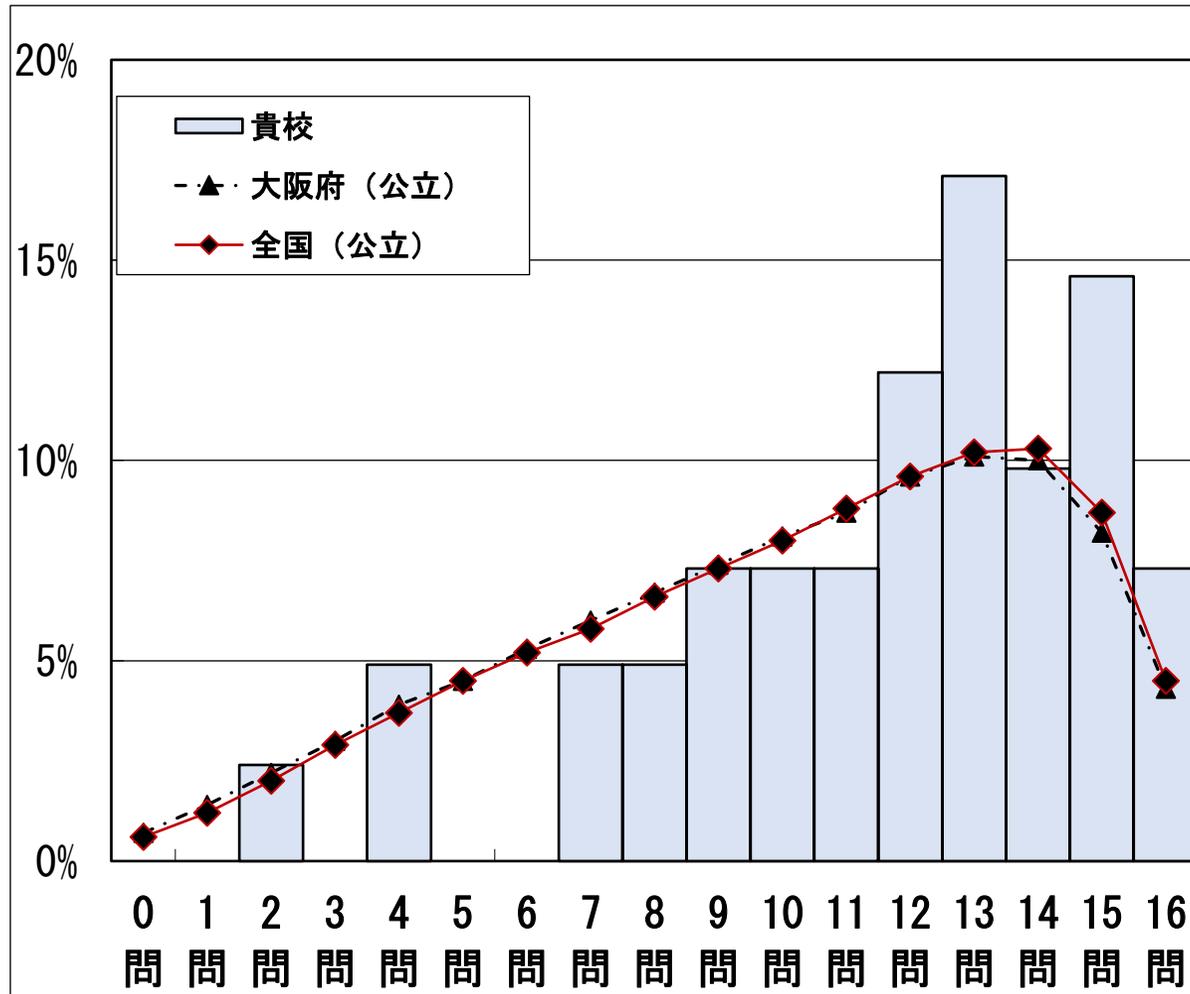
経年比較グラフ(対府比)



経年比較グラフ(対全国比)



	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
大阪市立上福島小学校	41	11.6 / 16	72	12.0	3.4
大阪府 (公立)	64,385	10.0 / 16	63	11.0	3.9
全国 (公立)	947,579	10.1 / 16	63.4	11.0	3.9

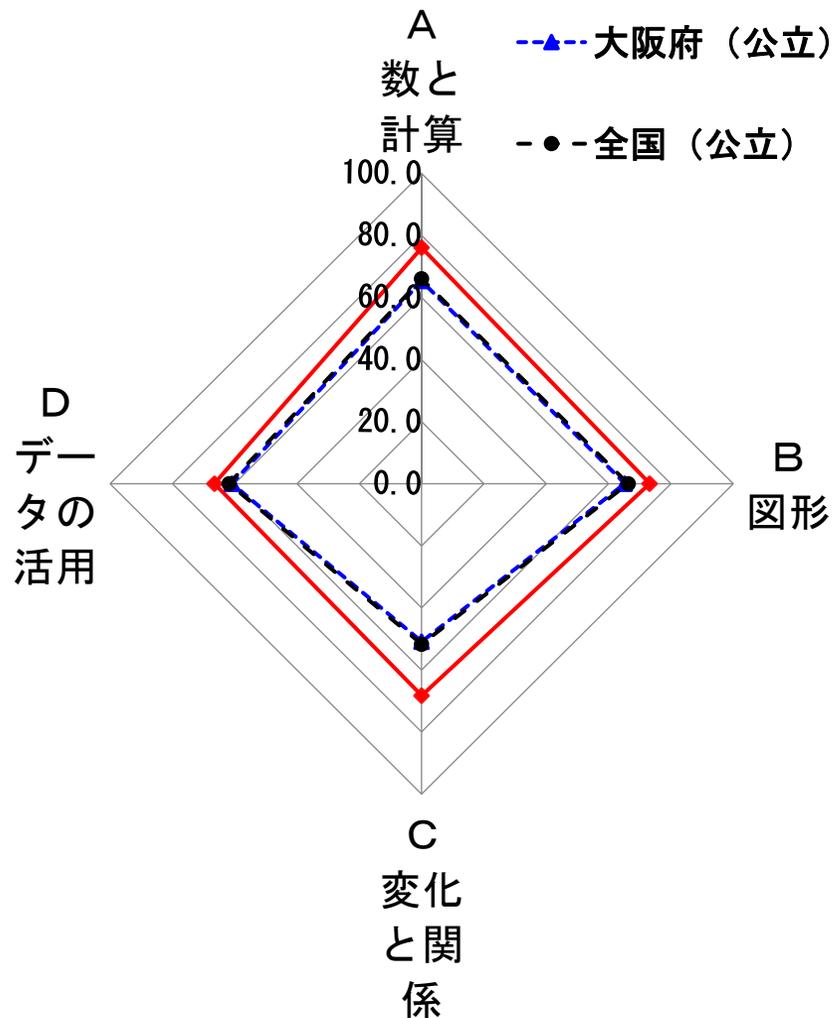


※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	貴校	大阪府 (公立)	全国 (公立)
△ 第3四分位	14.0問	13.0問	13.0問
◇ 第2四分位	12.0問	11.0問	11.0問
▽ 第1四分位	10.0問	7.0問	7.0問

調査結果概況〔算数〕

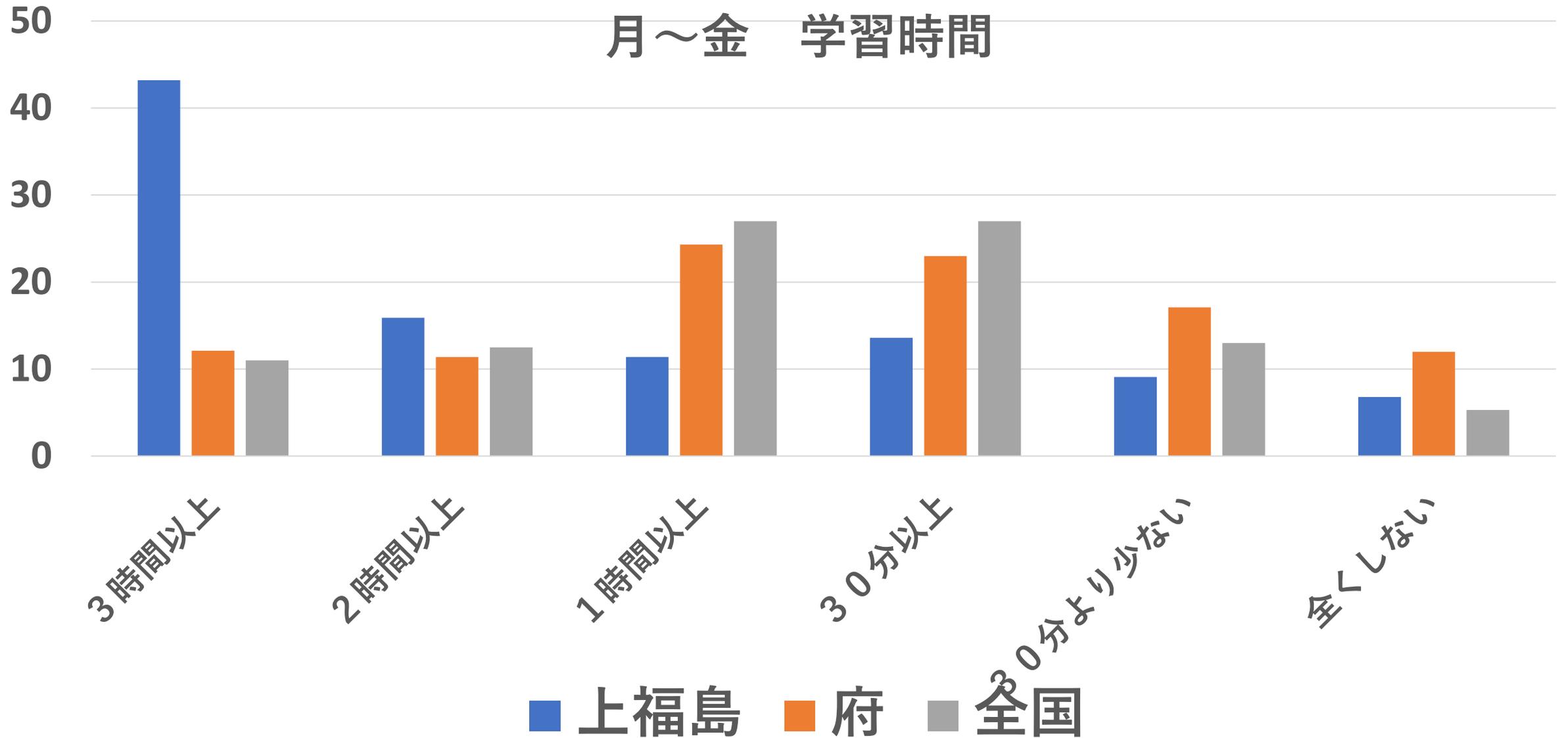
—●— 貴校
-▲- 大阪府（公立）
-●- 全国（公立）



分類	区分	平均正答率(%)		
		貴校	大阪府（公立）	全国（公立）
全体		72	63	63.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	76.0	65.3	66.0
	B 図形	73.2	65.2	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	68.3	50.9	51.7
	D データの活用	66.5	60.9	61.8
評価の観点	知識・技能	78.6	71.9	72.8
	思考・判断・表現	64.5	50.5	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			
問題形式	選択式	82.9	74.5	75.3
	短答式	69.7	61.2	62.0
	記述式	64.0	50.1	51.0

			貴校	府	全国
1 (1)	問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ	問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる	73.2	61.1	62.1
1 (2)	はじめに持っていた折り紙の枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ	数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかをみる	100.0	88.1	88.5
2 (1)	$350 \times 2 = 700$ であることを基に、 350×16 の積の求め方と答えを書く	計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	70.7	56.1	56.9
2 (2)	除数が $1/10$ になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ	除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる	80.5	68.3	69.1
3 (1)	作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ	直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる	82.9	84.8	85.5
3 (2)	円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ	直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる	78.0	69.9	71.3
3 (3)	直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く	球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる	48.8	34.5	36.5
3 (4)	五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く	角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	82.9	71.8	72.0
4 (1)	$540 \div 0.6$ を計算する	除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる	70.7	70.0	70.1
4 (2)	3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間を書く	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる	85.4	70.5	70.0
4 (3)	家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	48.8	29.2	31.0
4 (4)	家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く	速さの意味について理解しているかどうかをみる	70.7	53.0	54.1
5 (1)	円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く	円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる	78.0	80.6	80.8
5 (2)	示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く	簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる	73.2	71.4	73.3
5 (3)	折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	53.7	43.3	44.0
5 (4)	示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く	示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる	61.0	48.3	49.3

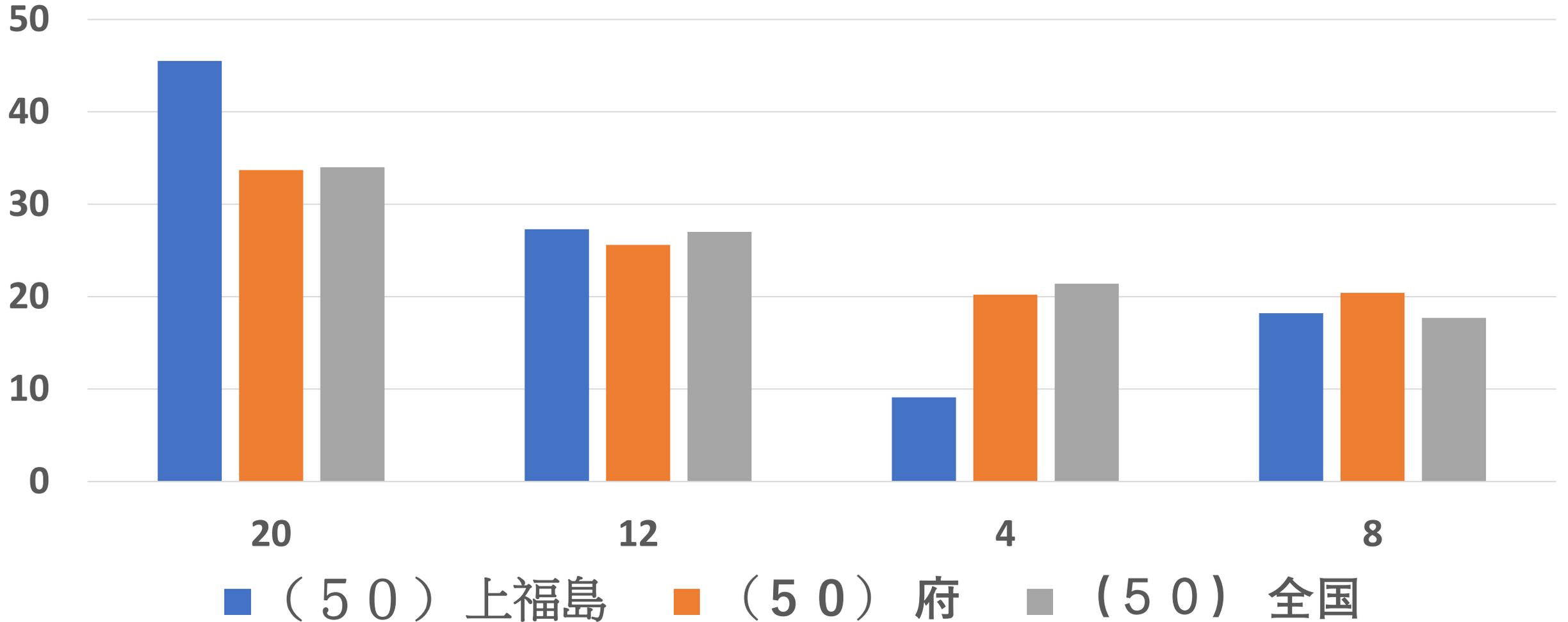
児童質問紙より



児童質問紙より

72.7%

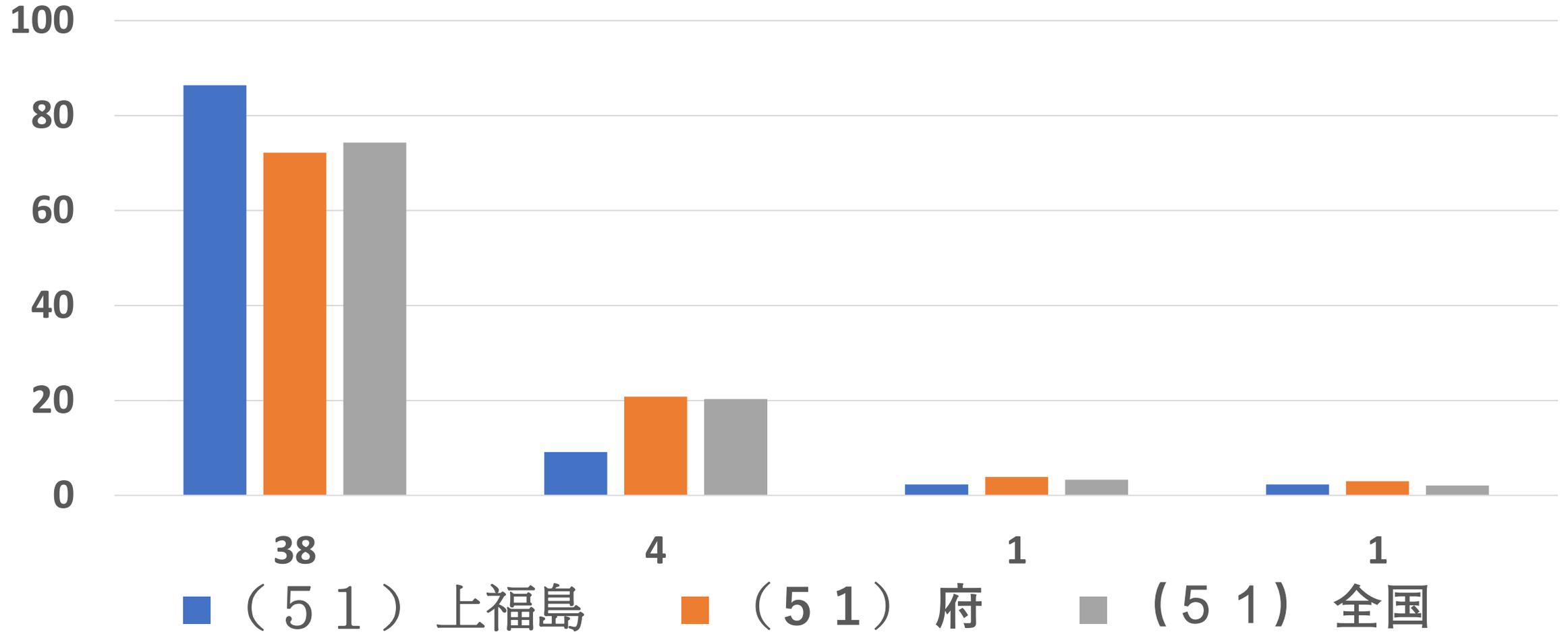
算数の勉強は好きです



児童質問紙より

95.1%

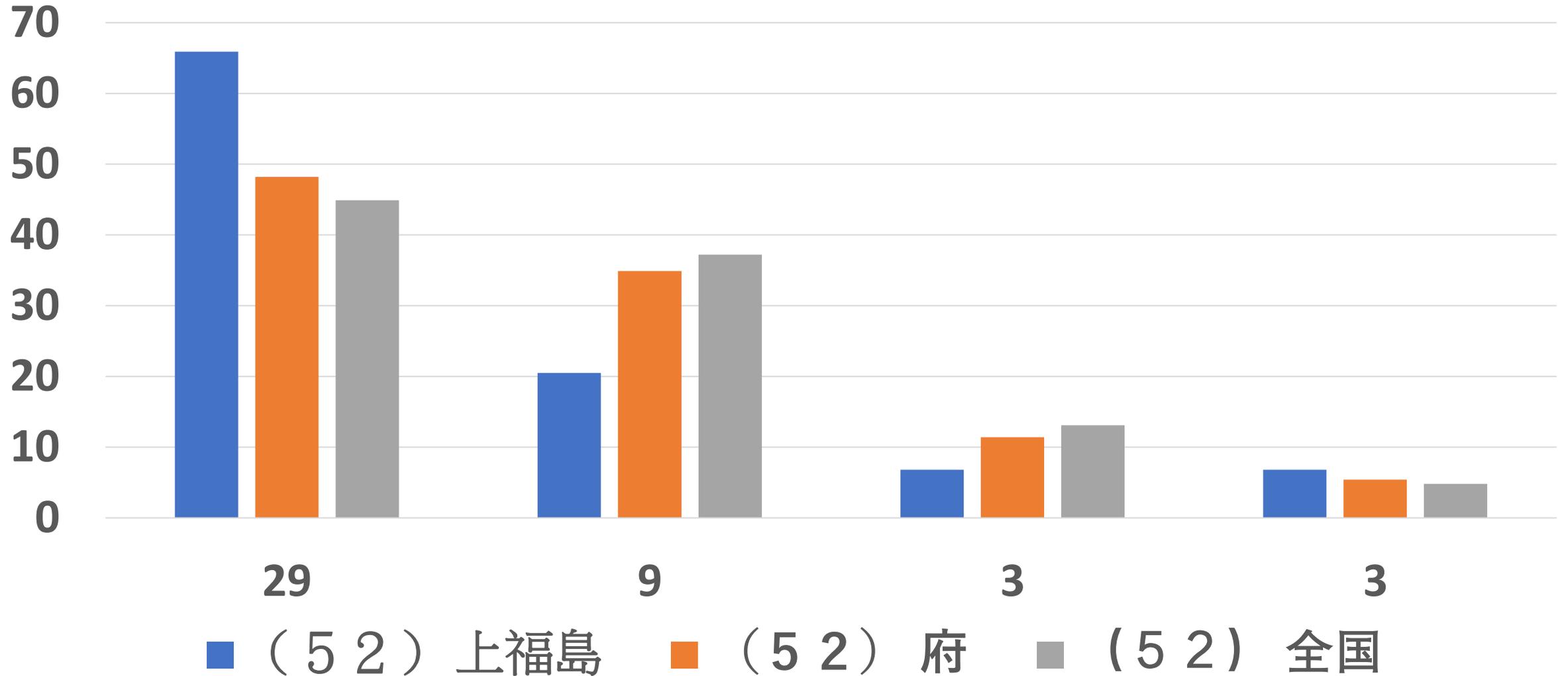
算数の勉強は大切だと思いますか



児童質問紙より

86.4%

算数の勉強はよくわかりますか



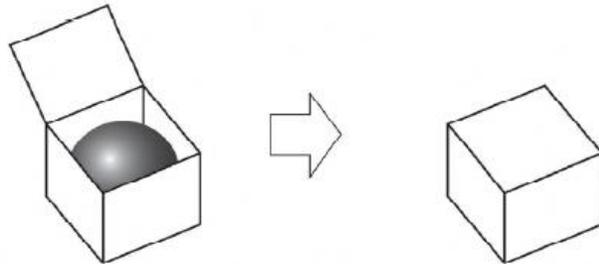
子どもたちの苦手な問題を分析してみましょう。

球の直径の長さ と 立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる

(3) 直径 22 cm の球の形をしたボールがあります。



このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。



この立方体の形をした紙の箱の体積が何 cm^3 かを求める式を書きましょう。
ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

解答の分析

正答 (正答率 36.9%)	$22 \times 22 \times 22$
誤答例	① 22×22 ② 22×3.14 など 3.14 を用いた式 ③ 22×6 等

ポイント これが分からない。と 正答しない

- ・ ピッタリということはどういうこと
玉の直径は 縦も横も 22 センチメートル
⇒ 円の直径は球の直径で、立方体の1辺と同じ
- ・ 立方体の体積は 一辺 × 一辺 × 一辺
- ※ 円の直径 半径はどの部分なのか定着させる
- ※ 立方体の体積の公式を定着させる
- ※ 展開図の学習で縦 横 高さを
3次元で意識させておく

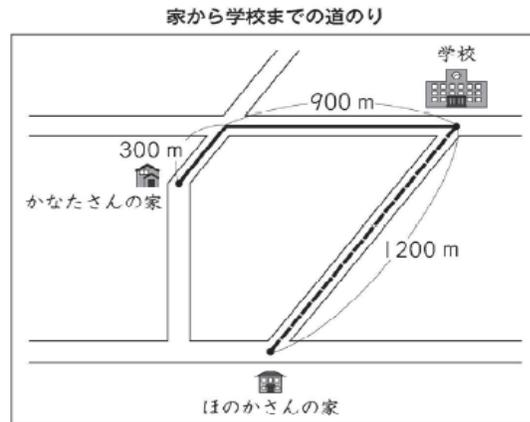
4 - (3)

上福島 48.8

全国 31.0

道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

(2) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。

下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

1 かなたさん

2 ほのかさん

- ① 歩いた道のりが等しいことを表す言葉や数
- ② 両者を比較して、かかった時間が短いことを表す言葉や数

※ ①または②の1つしか書かない場合が多い

※ 道のり 時間 速さ

時間をかけて丁寧に理解させ、定着させる

5 - (3)

こうたさんたちは、下の折れ線グラフをもとに、気づいたことについて話し合っています。

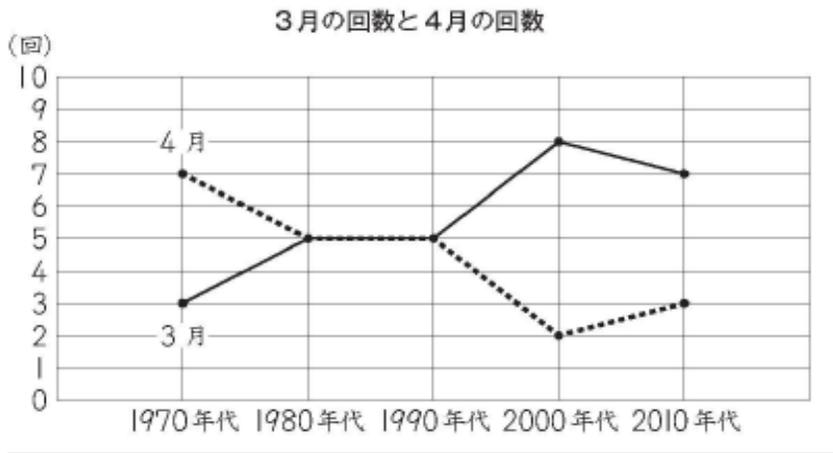
こうた 1970年代は、3月の回数より4月の回数のほうが4回多いですね。

いなの 3月の回数と4月の回数が同じ年代がありますね。

おり 3月の回数と4月の回数のちがいが大きい年代がありますね。

下の折れ線グラフで、3月の回数と4月の回数のちがいが最も大きい年代はいつですか。また、その年代について、3月の回数と4月の回数のちがいは何回ですか。

ちがいが最も大きい年代と、その年代について、3月の回数と4月の回数何回ちがうかを、言葉と数を使って書きましょう。



上福島 53.7

全国 44.0

解答の分析

正答例	3月の回数と4月の回数のちがいが最も大きい年代は、2000年代で、2000年代の3月の回数と4月の回数のちがいは6回です。
(正答率) 44.2%	<p>〈正答の条件〉</p> <p>① 3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代が2000年代であることを表す言葉</p> <p>② 2000年代の3月の回数と4月の回数の違いが6回であることを表す数</p>
誤答例	3月の回数と4月の回数のちがいが最も大きい年代は、2000年代で、2000年代の3月の回数は2回で、4月の回数は8回です。

○誤答例の解説

このように解答した児童は、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代が2000年代であることは記述できているが、2000年代の3月の回数と4月の回数を誤って記述している。

ポイント

- ・ 情報の整理 国語読解力 が必要
- ・ 標題を見る 縦軸を見る 横軸を見る メモリを見る

- ※ グラフの見方を徹底的に定着させる
- ※ 情報を整理して考えていく、習慣を定着させる。